

23/6/5 特別史跡名古屋城跡バリアフリー検討会議（第5回）  
名古屋市民オンブズマンによるメモ

14:03

小鹿：総合事務所主幹 定刻過ぎたが始めます  
事務連絡 議事、報告事項 録音・録画はご遠慮  
アルコール消毒

佐治：観光文化交流局長

出席ありがとう

1年2か月ぶり

私は所長だった

復元する木造バリアフリー

忌憚のないご意見を

6月3日 市民討論会が開催された

アンケート結果 この後説明する

参加者 報道にもあるが、差別的表現を含む不適切

障がい者団体 丁寧な対話 信頼関係を築いてきた本市

まことに遺憾

注意喚起行えなかった 会議運営上問題

誠に申し訳ない

今後再発防止 誠心誠意取り組む

小鹿：出席者紹介

堀越、小野、川地、小濱、小松、三浦、磯部

ネット：野々垣、高橋、中嶋、渡辺、山田

欠席：麓、西形、矢野

報道関係 写真・ビデオはこれまで

資料の確認 会議次第、資料1

議事は木造天守のバリアフリー

公募を実施 昨年12月最優秀者選定

市民から容認・反対意見をいただいた

市民アンケートを実施した

様々な意見をいただいた

今後市長の判断を仰ぐが、市の判断とすべく専門的見地から先生からご意見を

これまでの取り組み スライドでまとめた

意義を伝えたいうえで説明 3点

- ・ 意義
- ・ 復元の方針
- ・ バリアフリー対応
  - 一般的なエレベーターを付けられるのか
  - 付加設備の方針
  - MHI が選定
  - 定員 4 人、または車いす 1 名介助者 1 名が登場可能
  - 柱・梁を取り除かずに設置可能
  - 各階で乗り換えて昇降する
  - イメージ 地下
  - ない場合の CG 4 階
  - ある場合の CG 4 階
  - 床グレーはスロープ
  - 乗降口の前 設置位置を決める
- ・ 市民アンケート説明
  - 4/19-5/8 5000 人のうち 1448 人 29%
  - 設置しない 23.4%
  - 1 階まで 16.9%
  - 5 階まで 47.2%
  - 年齢ごとの回答 多少のばらつき おおむね同様
- 参加申し込みがあった人 6/3 市民討論会
  - 時間がなくまとめられていない
  - 口頭 市民からの意見 どんなのがあったのか
  - 質問意見用紙 まずは書いていただき紹介
  - 挙手による意見
  - 一部紹介
    - ・ 史実に忠実は分かるが、耐震も重要 両立が必要
    - ・ 設備ではなく、パワースーツなどの発達が進めばいい
    - ・ 1 階まで希望
    - ・ 素晴らしい名古屋城を平等に いい考えを見つけて
    - ・ 差別なく見て
    - ・ 知らなかったので素晴らしい城があったのか
    - ・ 現天守 登れなくなるのは障害者差別されている

座長にお願い

堀越：全員からの意見を

リモートも 今回市民アンケート 技術公募もある

中嶋先生から

中嶋：バリアフリーは重要 あたりまえ

復元のコンセプト 守った上で現実的な解を見つけるのは難しいがそれしかない  
アンケートの結果 ある意味半々

最上階まで

ある意味 できる範囲で

コンセプト 技術の成熟性 今すぐに現実階がでてくるか

最上階は難しいだろう

バリアフリー重要

5年に1回、10年に1回考える

社会システム的な議論 一つのやり方では

堀越：長い間で変化

山田：社会技術 ものの考え方 1点から

社会技術 単に作られるものではなく、社会でどう受容していくか

経緯 昇降機採択された

1年半の間 それ以外 社会技術観点 名古屋城事務所 活動が行われてきた  
その点が説明されていない

今や大切なのは市民がどう受け入れるかという視点

昇降技術が一番ギリギリ最高の技術

それを知っていただく必要がある

昨年10月 技術対話 有識者と提案技術 何が望ましいか 何ができないか  
3月 ワークショップ テクノロジーアセスメントと似ている

障害者や高齢者 一部集まって技術的提案 こういうことができないか

ここまでが限界 話し合った

そういったところの経緯が報告されていない

アンケートが行われた

アンケートを見ると、一番はじめのアンケートと知識が同じ

当初・エレベーターある方がいいか

今回・昇降機ある方がいいか

今回、対立構造をつくるような構造

埋めるべく技術対話

これからもやるべき

ギリギリのところを狙っている

市民が知ってなるほど

技術の行方を見ながら、この技術を認めよう  
機運をもっと高めていこう  
アクティビティ  
雰囲気醸成する  
社会技術を無視しないで  
広く知らせて、次にとれるようなアクティビティをとっていく  
今後の望んで  
今行われたアンケート 市民に情報を提供してもよかったのではないか

堀越：技術 もう少し進んだもの  
事務局で説明を

小鹿：山田先生の話  
公募より先に進んだものがあるのか？

堀越：今話を聞くと、そう聞こえた  
事務局も承知？  
山田先生からも説明を

山田：社会技術を市民に展開  
コンセンサス会議 みんなで合意  
シナリオワークショップ コンセンサスは得られない 未来を考えてロードマップ  
まず大事 現状は技術はぎりぎり  
今はこの技術 将来はもっといい技術 そっちを目指そう  
現状を知る その先 ロードマップを引く  
そのような活動 市民も現状の技術に納得する  
それがないと、つけるかつかないか  
知識もない 結論の結果 対立になる

堀越：考え方 物理的だけではなく社会的  
法律 方向だという理解

小鹿：現状の立ち位置 垂直昇降技術がベストでは  
現状を市民に情報発信して  
将来に向けて市民を含めて考えるのが重要ではないかということか

山田：そういうアクティビティを継続的に

いままでやってきたことを発信  
意義を伴って発信  
みんなで誇れる名古屋城  
「みんなを受容しよう この線を選んでいる」

堀越：福祉関係 高橋

高橋：土曜日の市民討論会 youtube で傍聴した  
率直の感想 よかったところ 話が元に戻ったよう  
公募前にもどったよう  
建築を専門 文化財というのはどこに位置付けられるのか  
麓先生 復元すると文化財？ 文化財ではない  
全体の史跡の構成要素  
これまで表に出てこなかった  
参加者 車いすユーザー 様々な人がいる 「上がりたい」  
家康も上がらなかった  
今の時代にどういう昇降設備を設けるか 大事  
23人乗り2基→1人1基  
未来社会が求めている社会環境は  
すごく大事 1年前 公募があった  
検討会 どういう要求水準 目安の市民の説明がない  
ワークショップ 少なくともバリアフリー検討会議に開示すべき  
発言のスタンスがばらばらに  
できるだけ避ける  
議論の前提を共有  
対話するためには重要  
これから一つ一つ 時間がかかるかも  
逆にスピーディーに  
今回最終案 MHI 技術提案 どういう意図か  
技術的対話に参加していない 不可解  
船舶、航空機  
今回の場合どこまで適用するのか  
加点の要求水準  
いかに点数を確保するか  
どの程度の開発になっているのか 全く見えていない  
また原点に立ち戻って議論しないと  
山田先生と同じような意見

特に要求水準 ストレッチャーできるのか  
MHI はどういう提案あったのか 開示しないと、議論の立ち位置がばらばらに  
バリアフリー検討会議の課題  
社会的に求められるか  
史実に忠実 どう結びつけるかばらばら  
日弁連から要望 拝見した  
こういうこと 関心がある人 どう対応しているのか  
ないまま既成事実化 みえてくる  
クリアにして少なくともたくさんの専門家がいるバリアフリー検討会議でオープンに  
どこまでギリギリか  
部品の部分をいかに縮めるか  
計画 1ウェイだけではさばききれないので  
明確に技術提案  
最後に要望 MHI 担当者、竹中担当者 バリアフリー検討会議  
フラックに議論する場 開発技術支援することが重要ではないか

堀越：ありがとう  
技術の詳細を明確に  
渡辺

14:56

渡辺：いままでかなりワークショップ  
それが公開されていない 問題  
マスコミでの報道の仕方  
ちゃぶ台返しのような発言 周知されていない  
市民アンケート ありかなしか ○× 多様  
対立構造にしない  
技術 公開すべき  
障害ある人の生活が見えない  
まったく反対ではなく、どうしたらできるか ポジティブな議論しているはず  
公開して  
昇降装置 コンペはスペースに収まること  
誰がどう使うか ストーリーが議論されていない  
ストーリーから昇降装置がよい 議論すべき  
かなり狭い 普通型車いすが1台が限界  
・乗れない人はどうするか  
・乗ったらどうなるか

名古屋城を利用して楽しむ 市民だけでなく外国人、小中学校利用  
アクセシブルな対応？  
もう少しストーリーを丁寧に議論して  
できない場合、みんなが平等に楽しむ場合、代替手段をどうするか  
せっかく来たけど登れないのは残念  
こういった楽しみをできるんだよ  
現状はこう 将来技術が発展したらこうなる 夢を語れたら

堀越：公開を、技術の進歩を  
磯部

磯部：コンペの結果

敬意を表するが、結果は残念  
応募数が少なかった  
1つしか紹介しなかった どうして応募状況説明しないか  
4件しかなかった  
「最」がつくのか  
条件が厳しかった 無理な条件  
応募が減ったかな  
なにがいいか難しい 条件を緩くしていろんなアイデア  
先 継続して  
この会議 バリアフリー検討会議 単なる昇降機の検討ではない  
昇降機を使えない人 誰がフォローしていくかを考えないと  
例えば 幼稚園の遠足 20人 親も 40人  
ここへきて階段のみ  
昇降機しかない トイレがない  
めちゃくちゃ時間かけてあげて降りる  
30代 高齢者 ほしいと言っている 子育て世代もフォロー  
バリアフリーにならない  
車いすをちょろっと運べばいいではない  
そのために階段体験館 私が提案して作った  
だれがどう使えるか  
つかえない人が対象者  
今回の採用技術 どこまで対応できるかわからない  
階段体験館 情報収集されていない 残念  
名古屋市役所に近い 1時間あげるから体験して来い  
天守閣を楽しもうとしているか見えない

今回の技術 いいか悪いか判断できない  
厳しい人 だめという  
昇降機いらぬ人 だめという  
だれがどんな意見なのか  
史実に忠実 文化財 宝物 宝物を作ろう  
観光 見世物 遊び場を作ろう  
両立できるか  
それもできなければ、できないとはっきり言おう  
「だれも入れぬ」一つの解決策  
中途半端が危惧

堀越：対象者が一つのポイント  
野々垣

野々垣：専門 歴史・意匠  
新築の建物 これから時代を作る建物  
文化財 こういった議論 過程自体が文化 価値がある  
歴史をやっている人間 客観的に時代を振り返って  
十分な議論を重ねていると感じる  
意匠が歴史的に正しいか 次の段階で起きる  
新築の木造天守 歴史の記録に基づく すでに意味がある  
プラスして新しい技術を加えた 新しい文化財を作る一歩  
白黒つける話ではない  
最初の段階を続ける  
来年 新しいことを考えられる 改良を重ねる  
歴史的建築物  
木造天守 役割を担う  
名古屋市の存在感  
日本国全体の文化財的価値を生み出す存在になりえる  
議論 オンライン同じような意見  
歴史的な建造物にこれからしていく過程  
どう積み重ねていくか ロードマップを議論

堀越：三浦

三浦：今日の資料 4 ページの下 史実に忠実に作る  
遺構の保存 天守台台座の石垣



ごもつともだが、優先する大前提  
全体整備検討会議で何回も言っているが書いていない  
「観覧者の身体を絶対的に守る」大前提  
地震が起こっても危害が起きないように  
あってやっとな史実に忠実、石垣  
優先なのは人命 なぜ無視するのか 遺憾  
もうすぐ南海トラフ地震が起きる  
今回木造 ちゃんと木造で作って存在できる シミュレーションでわかっている  
バリアフリー 柱や梁 木造 それを除去すると、震度7耐えるのは無理  
だから柱や梁をとっちゃいかん  
前提があったこと 市民アンケート お伝えされているか 疑念に思う  
今回 柱、梁を傷つけない 理由が書いていない 説得力がない  
切ると大天守が倒れて、身体に実害を与える  
公募の条件が決まってる  
厳しい条件 身体を守る 厳しい条件をクリア なんとか最大大前提をクリアした  
バリアフリーでいいのか  
・危害がない 大前提を守っている  
・外に脱出可能  
昇降機は脱出には使えない  
必要最低条件はクリアしている  
私は認めてもよいと思う

堀越：大前提が重要

小野

小野：バリアフリーの件 最初から申し上げている  
いろいろな状況 変わっていない  
建物の安全性もそう  
いろんな技術を駆使 その技術を駆使して復元は当然  
耐震技術も、それ以外も  
そういう視点で史実に忠実な復元 ほかの先生もそれらしいこと  
1：0の対立構図ではなく、妥協点を見出す必要がある  
現状技術で最上階 難しいとすると、何らかの妥協点を見出すことが必要では  
バリアフリー技術 技術進展 経年変化 進展していく  
それが進展するなかで改善・改良余地を残す  
山田先生 現在の最高技術をもって1：0の対立構図ではなく何らかの妥協点を  
私は建築構造 先ほど三浦先生 地震時の安全性 絶対はありえないが、

現在の技術の中で安全だろう 結論づける  
「絶対」はありえない  
知恵を出して探っていく  
「史実に忠実な」 「バリアフリー」ぜひ必要

堀越：川地

川地：昇降設備議論

私は昇降設備について性急に結論を出さなくてもいいのでは  
工事の途中に設置することも可能  
建物ができてから設置も可能  
事前の位置を予測 荷重  
工事中、竣工後設置もいいのでは  
公募の件数が極めて少ない 最優秀 本当に考えていいのか  
それ以外 かなり可能性 世の中にあるよう  
時間をかけてフラットな形で公募をかけることも必要では  
かつての天守 為政者のための施設  
今回復元する施設 市民のための施設  
分け隔てなく見学できる 前提  
市の方から提案 昇降設備 史実に忠実な復元という意味でも疑問が残る  
もう少し 理解している範囲 シャフトの外郭が3メートル  
18頁の絵 武者走りまではみ出す  
時間をかけて 時間はあと思う

堀越：小濱

小濱：いろんな先生から話 何を言えばいいのか  
昇降装置に対する意見でいいのか  
構造工学が専門 どこまで追求できるか  
公募された案 決まったのは公募条件満足 最優秀  
それ以上 この資料では言えない  
バリアフリー できるだけ障害者に便利のように  
構造的に追求できるか  
これだけの資料では足りない  
高橋先生 MHI、竹中 率直な議論をすべき  
具体的な内容 そういう議論がないと  
なかなか今日の資料の範囲内では難しい

史実に忠実は大前提だが、昇降装置 便利なものを  
1年前から議論が進んでいないよう  
具体的 昇降装置方法と、実際の天守の軸組み 関係する  
1階分あがる 2階分あがるのも可能では？  
障がい者もより便利なのは  
これ以上のことは言えない

堀越：小松

15：27

小松：あまりにも情報が少ない

技術的な課題が理解できない

1階まで？最上階？

なぜ1階までなのか

感覚的に回答している？

8ページ 13 小型化 奥行方向は変えないが、間口部分は圧縮する

梁に当たらないという寸法なのか

理解できない

平面図 間口部分圧縮するとなぜ入るのか 理解できない

この場は技術検討の場ではない もう少し技術者としてコメントできるような資料を

次のページ 10枚目 白い箱イメージ 梁に当たっていない？

技術的に的確 言えるような資料を

私が再三申し上げている 非常時どういう運用されるのか

たくさん上げたがなかなか降りられない

今の昇降機 非常時も使う

火災時どうするのか

15：31

堀越：皆様から意見をいただいた

言い足りないこと

追加にご発言されたい人は

磯部：突拍子もない発言をする

過去の石垣、地中に埋まっている 現地でないとできない

木造天守を別の場所で作っては

作っていく過程を見てもらう

いろんな技術を高める

いずれ本物

どうしても現地でないといけないのか  
調査研究 それが調査研究  
文化財行政は教育委員会がやっている  
小学校跡地 校庭が余っている  
技術力  
鉄筋ビルを耐震化して復活させる

堀越：史実に忠実+特別史跡の場所に作る 意味合い  
今までの話を伺うと、現代の技術 今回提案が最善  
時代の進展で変わっていく よりよいものの可能性も含める  
それを前提に考えては  
社会的にどう考えるか  
進め方 技術の説明が不足 いろんな情報が共有されていない  
2-3年 コロナ禍で集まれなかった  
今後はそういうことは収まった より適切に情報を共有することが大切

高橋：今でもいいか  
一通り意見を聞いた  
今日の検討会議 獲得目標は ゴールはどうか  
経過説明なのか、もっと配慮して最終案に？  
たくさんの情報が不足しているのではないか  
そこを早めに事務局 作業していく必要  
最終段階 5回検討会議 どういう段階で、次の段階？  
クリアにロードマップを  
何人かご発言 技術革新はあると思うが、スペース 木造復元  
前提が決まっている  
操作系はありえる  
車いす、ベビーカー どこまでこたえられるか 提案が届いていない  
どこの段階で議論が深められるのか  
全体のロードマップ 見えにくい  
12月-3月 作業があった  
もう一度会議を開いて  
有効な議論ができるのでは

堀越：ありがとう  
今の意見も はじめのとき主幹から意見  
公募があって、最優秀者選定された

市民にも十分かどうかは別 お伺いをした  
そこで、一つは今後どう進めるかは市の判断  
それに対して今日皆様から意見を披歴して受け止めていただき、  
今後どうするか考える、という位置づけ  
いかがか  
議論として、まとまらないと思うが、技術を詳細 いろんな情報  
これとは会に対して情報提供 今後の検討 きちんとやっていく  
一つは技術が出て、ご意見がでて、理解できたわけではない  
難しい面もあるが、一つの区切り、節目部分  
市の方で持ち帰る  
ご異議がなければ、市が受け止めてどうやるかご判断をして  
全体の会議 そちらの方でも検討されると思う  
本日のところはまとめさせてもらえないか  
そうさせていただきたい  
以上をもって議事を終了  
昇降技術 なかなか難しい点もあるが、よりよい名古屋城木造天守復元を目指して、  
いろいろやっていただくことを望みたい

小鹿：皆様ありがとうございます

意見 主な意見 要点確認したい  
支援業務 安井建築設計 市岡さんお願いしたい

市岡：確認する

中嶋 復元コンセプトをもって実現する議論  
5階までは技術的に難しそう

安井建築設計：信頼性 最上階も難しいかも 5年10年

山田 昇降技術選定 ワークショップをして、いろいろ技術を選んだ  
技術の行く末を見守って、アセスメントを進めて  
アップデートして  
みんなで誇れる名古屋城に

高橋 youtube 配信を見た 文化財 どう位置づけられるのか

構成要素の一つ できた当初は文化財じゃない  
史実に忠実 1人しか登れない文化財でいいのか

MHI、竹中、バリアフリー検討会議でフランクに議論

渡辺 いままで開催されたワークショップの内容が周知されているか  
アンケートも〇× だれがいつ使うのか

史実に忠実 スペースが限られる 代替手段をどう考えるか

現状はこう 将来はこうという夢  
磯部 技術コンペ 応募者が少なく残念  
条件が厳しいから アンケート 30代が上まで子育て世代  
階段体験館の活用を 技術検証を  
野々垣 議論が歴史になっている 歴史的建築物を建設  
三浦 史実に忠実だけでなく、命が結構大事  
南海地震に耐えるには柱梁を欠けてはいけない  
今回技術 大前提を守った技術 必要最低限をクリアしている  
小野 考え方が変わっていない 安全性+その時代の技術を反映  
1か0ではなく、妥協点を作ることが大事  
川地 性急に結論出さなくてもいいのでは 途中や竣工後にもつけられる  
今後考えても  
小濱 構造 公募案 条件を満足している  
MHI 担当者と議論しないと理解難しい  
公募と軸組みが関係 今日資料だけではわかりにくい  
小松 今日の技術 なぜ1階までか  
上の階まで上がるとどうなるか 技術者としてはコメントしにくい  
梁を切るのかわからない 名古屋市の説明では厳しい  
外回り 大きなところで囲う  
磯部 別の場所で作っても  
堀越 特別史跡の場所に史実に忠実に復元がポイント  
今の技術では最高  
広報が不足 情報を出すことも必要では  
高橋 位置付け どういう段階なのか 途中なのか  
直近のロードマップ  
堀越 主幹から話 最優秀者、市民討論会 今後どう進めるか  
名古屋市がどう判断するか  
市として受け止めて

小鹿：要点をまとめた

三浦：今のまとめ 私の意見が若干違う  
「命が大事」最初に言ったよう  
究極の大前提  
文化庁に持っていく報告書に書いてある  
この場で思いついて言ったわけではない

安井建築設計：そう認識している

15：56

小鹿：ありがとう

市長に報告して、座長から話 市としてバリアフリーの方向性決めたい  
最後 局長から挨拶

佐治：先生 ご熱心な議論ありがとう

一部の先生入れ替わり

平成30年第1回からいろんな意見

公募、選定 一つの節目

市として市長を含めしっかり受け止めて

木造天守を多くの人に楽しんでもらいたい

ご指導厚く御礼申し上げます

小鹿：ありがとう